

## 2022 年度 第2回理事会 議事録

- |         |  |
|---------|--|
| 1 日時    | 2022 年 10 月 15 日(土)13:30～15:00<br>連盟事務局 206 号会議室                                 |
| 2 出欠状況  | 出席4名: 出口会長、高尾副会長、滝澤理事、小原理事、中村理事、関理事<br>欠席2名: 西村理事、北村監事<br>定款第 36 条の規定により、理事会は成立。 |
| 3 議長選出  | 定款第 35 条 2 の規定により、出口会長を議長に選出した。  |
| 4 書記の委嘱 | 荻野事務局次長に委嘱した。  |
| 5 同席    | 中井顧問弁護士、山村事務局長、前田主事  |

理事会冒頭において、出口会長から 4 月から今までの主要事業(アスリートパスウェイ委託事業、バッジテスト、JSPO 公認コーチ養成講習会事業等)について説明があった。また、PF の活動について紹介した後、山形県及び岩手県で実施されたミニバイアスロン体験会等について各地方在住の理事(中村理事及び関理事)に補足での説明を提案したところ、それぞれから事業の様子や参加者数などについて説明が加えられた。さらに、出口会長からはハイパフォーマンス戦略本部科学部会の活動状況についても説明があった。

### < 審議事項 >

- 2022-2023 シーズン代表選手・ユニバーシアド代表内定選手について  
事務局長から審議資料1に基づき報告があり、承認された。
- 監事の選任及び理事の退任について  
事務局長から審議資料2に基づき北村監事の選任及び西村理事の退任について報告があり、いずれも承認された。
- 規則・規程の改正について  
事務局次長から審議資料3(別冊)に基づき「役員選任に関する規程」「利益相反ポリシー」「役員候補選考委員会運営規則」「スポーツ仲裁規程」「広報・マーケティング・ガバナンス委員会運営規則」「危機管理マニュアル」について説明がなされ、いずれも承認された(危機管理マニュアルのみ報告事項。他は理事会議決事項)。また、事務局次長による説明中に顧問弁護士から提議があった事項(従前の「広報・マーケティング委員会運営規則」と「ガバナンス・コンプライアンス委員会運営規則」を廃し、「広報・マーケティング・ガバナンス委員会運営規則」とすることを議決する必要があるという提議)についても承認を得た。
- 短期借入について  
事務局長から審議資料4に基づき説明があり、北洋銀行から 3,000 万円・北海道銀行から 2,680 万円をそれぞれ借入れることを定めた「2022 年度短期借入計画(案:別紙)」について承認された。なお、当該資料中の「北海道銀行美香保支店」は「北海道銀行本店法人営業部」の誤りである旨訂正があった。
- 2023 年度事業募集について  
事務局長から審議資料5に基づき説明があり、承認された。また、事務局長から PF による今後の事業申請に当たって助言がなされた(申請事業の計画変更等が生じた場合の可変性を勘案すると、ミニバイアスロ

ン等の事業を実施する際は「大会事業」ではなく「体験会」もしくは「講習会」等で事業申請を行った方がよい。

#### 6 ハイパフォーマンス戦略本部・新設置委員会の業務等について

高尾副会長から審議資料6に基づき説明がなされ、各理事からの意見を求めたところ、関理事から質疑があった。質疑及び回答の要旨は次のとおりである。なお、本件については引き続き検討を行う。

また、新組織図の国際部長について、西村理事の退任に伴い出口会長が就任する旨報告があり、承認された。

##### ・関理事からの質疑

###### ①「PF 拡大・地域創生委員会」について

地域創生というワードは耳障りは良いが具体性が見えない。

###### ②「競技運営・環境委員会」「計時計算委員会」について

これらはスキー連盟の組織体制を参考に設置していると思われるが、ポイント制等クロスカントリースキーとは状況が異なるため、統合・一体化しても良いのではないか。

###### ③「国体推進委員会」「PF 拡大・地域創生委員会」について

PF の拡大と国体の推進は密接な関係にあり、一体的なものなので、これらも統合して良いのでは。

##### ・高尾副会長からの回答

主旨はいずれも理解できる。いずれについても、今後各理事及び委員会も入れた枠組みで意見を伺い検討していく。

#### 7 2022 年度冬季大会予定表について

事務局長から審議資料7に基づき報告があり、承認された。なお、事務局長から「第 58 回バイアスロン日本選手権大会(基金助成事業)」については一般銃の部と競技銃の部を分割開催することの可否について JSC に照会中との補足説明があり、この照会への回答次第では前段を JSC 補助事業で実施し、後段を NF 単独事業として実施することとなる旨の説明がなされたが、これについても併せて承認された。

また、関理事から岩手県での冬季国体について現状における情報提供があった。主旨は次のとおり。

##### ・岩手国体について

2月17日～20日にわたって開催。デモンストレーション種目として、ミニバイアスロン大会を2月11日に実施予定。デモンストレーション種目のため、参加者は原則県内のみに限られ、積極的な参加周知が難しい状況があることをご理解いただきたい。ただ、シニアの参加者については以前近隣県から参加者を募って実施したという前例があるようなので、今回についても呼びかけを行おうと考えている。

#### 8 その他

滝澤理事から以下の主旨による意見があった。

##### ・滝澤理事からの意見

###### ①各専門委員会について

縦割りではなく、先ほど関理事からも意見があったように横のつながりをもってやってもらいたい。

###### ②JSPO 公認コーチ資格について

国体の監督やコーチは資格取得が必須とされている。バイアスロンの国体種目化を目指すのであれば、この辺りの取り組みや実績を今からしっかりと整備しておく必要がある。そうでなければ、国体を所管する JSPO や文部科学省からいい反応を得られないであろう。

##### ・出口会長からの回答

そのとおりであり、ご意見として承る。